

曾於文藝

うたごよみ

題 字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

俳句

末吉俳句会

瀬音聞き水を命に岩煙草

古藤 まゆ美

滝しぶき今は亡き人偲びつつ

宮路 生大子

今年また峽に遊べり蟬時雨

本浦 玲子

大陽俳句会

ここ掘れと茗荷の花の誘ふ藪

福村 よう子

雑草とともに蜥蜴を掴みたる

逆瀬川 節子

見上ぐれば雨中に清し花臭木

岩重 みどり

短歌

末吉短歌会

寂しさを言へば切りなしひとり身の
自由の中の不自由を知る

森岡 ちどり

大陽短歌会

手のひらの二倍に育つ葉の下に
ズッキーニの花黄色に咲きぬ

福元 たき子

ねじり草雨に咲きおり散歩路を
今度まではと免許更新へ

竹内 娃子

夕餉終えなかなか暮れぬ外に出て
インパチエンスの花がらを摘む

加塩 秀子

財部短歌会

ガラス越し裂くいなづまの一瞬に
心鎮めて貴方をおもふ

井上 澄子

球磨川が暴れ暴れて流れゆく
インフラ壊す無常の雨

児玉 次雄

記憶にも記録にもなきと猛烈な
前線居座り非常な爪跡

杉村 リカ

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

厄介ちよつ 涙も出らん 新けコロナ

古川 一幹

涙目で おやつをねだい やんちゃ孫

鈴木 一泉

コロナ奴 涙止まらじ 騒動ごつじや

浜田 一好

世ん中ん 涙を見すい コロナどん

桐野 奈世

大陽薩摩狂句会

祖母は寿命を LEDに
切り替つ

津留 群志

小むなつた 女房ん散歩い
手を添えつ

小倉 りんりん

バーゲンで 目移い拳句き
滓す掴ん

西山 美代子

何処へ行つも マスク準備とが
一番じゃ言つ

境 すやすや